

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境に関する前提条件の変化等に伴い、予想対比変化する可能性があることにご留意ください。

文中の付表に掲載している計数は、それぞれを原則四捨五入しております。また、金額が損失または減益の場合には、△を付しております。

平成17年11月22日

## 平成17年度中間決算発表

それでは、三井住友フィナンシャルグループの平成17年度中間決算についてご説明いたします。

お手元には、「平成18年3月期中間決算短信（連結・個別）」と「平成17年度中間決算説明資料」の2種類の資料をお配りしております。

それでは、決算内容について「平成17年度中間決算説明資料」に基づいてご説明いたします。

なお、当資料における【単体】は三井住友銀行単体計数、【連結】は三井住友フィナンシャルグループの連結計数でございます。

### 【三井住友銀行の単体業績】

まず、1頁をご覧ください。三井住友銀行の単体損益についてご説明申し上げます。

表の中ほど22行目の（一般貸倒引当金繰入前）業務純益は、前年同期比ほぼ横這い（+26億円増益）の4,742億円となりました。

1行目の業務粗利益については、米ドル金利の上昇等から市場営業部門収益が減少したものの、役務取引等収益の増加を主因にマーケティング部門収益が着実に増加したことから、前年同期比+39億円増益の7,666億円となりました。

18行目の経費につきましては、人員削減の進展等に伴う人件費の削減を行う一方、重点分野に対する積極的投資により物件費が増加したこと等から、前年同期比13億円増加の△2,924億円となりました。

【三井住友銀行単体】

（金額単位 億円）

		17年中間期	16年中間期比	16年中間期
業 務 粗 利 益	1	7,666	39	7,627
経 費（除く臨時処理分）	18	△ 2,924	△ 13	△ 2,911
業 務 純 益（一般貸倒引当金繰入前）	22	4,742	26	4,716

次に、臨時損益に移ります。

28行目の不良債権処理額に24行目の一般貸倒引当金繰入額を加えた与信関係費用は、1番下の50行目に記載しております通り△1,297億円と前年同期比大幅に減少しております。

これは17年3月期に将来リスク対応としての貸倒引当金の積み増しを含め、バランスシートのクリーンアップを図ったこと等によるものであります。

[三井住友銀行単体]		(金額単位 億円)		
		17年中間期	16年中間期比	16年中間期
一般貸倒引当金繰入額	24	243	△ 3,254	3,497
臨時損益	27	△ 1,387	5,574	△ 6,961
不良債権処理額	28	△ 1,540	6,515	△ 8,055
与信関係費用 (24 + 28)	50	△ 1,297	3,261	△ 4,558

33行目の株式等損益につきましては、非上場株式等で△88億円の償却(36行目)が発生した一方、堅調な株式相場環境の下、+338億円の売却損益を計上したことにより+250億円のプラスとなりました。

[三井住友銀行単体]		(金額単位 億円)		
		17年中間期	16年中間期比	16年中間期
株式等損益	33	250	△ 198	448
株式等売却益	34	342	△ 258	600
株式等売却損	35	△ 4	0	△ 4
株式等償却	36	△ 88	60	△ 148

以上の要因により、38行目の経常利益は、前年同期比+2,346億円増益の3,598億円となりました。

特別損益につきましては、39行目にあります通り、△47億円の損失計上となっております。

このうち、当年度より適用となりました固定資産の減損会計に伴う減損損失額は△53億円です。

法人税等につきましては、海外店で支払った税金等△51億円(46行目)を計上しております。

また、48行目の税効果会計による法人税等調整額は、財務の健全性確保の観点から引き続き保守的に対応した上で、△513億円の会計上の税負担となっております。

以上の結果、49行目の中間純利益は、前年同期比+1,801億円増益の2,987億円となりました。

[三井住友銀行単体]

(金額単位 億円)

		17年中間期	16年中間期比	16年中間期
経常利益	38	3,598	2,346	1,252
特別損益	39	△ 47	74	△ 121
税引前中間純利益	45	3,551	2,420	1,131
法人税、住民税及び事業税	46	△ 51	△ 34	△ 17
還付法人税等	47	—	△ 74	74
法人税等調整額	48	△ 513	△ 511	△ 2
中間純利益	49	2,987	1,801	1,186

【三井住友フィナンシャルグループの連結業績】

次ページには三井住友フィナンシャルグループの連結ベースの損益の内訳をお示ししております。

連結の損益状況は、三井住友銀行の増益を主因に16行目の経常利益が前年同期比+3,497億円増益の4,638億円、24行目の中間純利益が前年同期比+3,389億円増益の3,923億円となりました。

[三井住友フィナンシャルグループ連結]

(金額単位 億円)

		17年中間期	16年中間期比	16年中間期
連結粗利益	1	10,219	19	10,200
営業経費	7	△ 4,216	20	△ 4,236
与信関係費用	8	△ 1,765	4,363	△ 6,128
株式等損益	13	352	△ 136	488
持分法による投資損益	14	141	12	129
その他	15	△ 93	△ 782	689
経常利益	16	4,638	3,497	1,141
中間純利益	24	3,923	3,389	534

【有価証券評価損益】

次に有価証券の評価損益について、4頁をご覧ください。

中段に三井住友銀行単体の有価証券評価損益を取り纏めております。表中の「その他有価証券」の評価損益は、株式は9,454億円のプラス、債券は△803億円のマイナス、その他は△135億円のマイナスとなり、全体では8,516億円のプラスとなりました。

[三井住友銀行単体]

(金額単位 億円)

		17年9月末		
		評価損益		
		17年3月末比	評価益	評価損
その他有価証券	8,516	2,002	10,139	△ 1,623
株式	9,454	2,781	9,801	△ 347
債券	△ 803	△ 880	29	△ 832
その他	△ 135	101	309	△ 444

【B I S 自己資本比率】

7 頁は、連結自己資本比率について、お示ししております。

1 7 年 9 月 末 の 連 結 自 己 資 本 比 率 は、 中 間 純 利 益 の 計 上 を 主 因 に、 速 報 値 で 1 7 年 3 月 末 比 + 1 . 0 6 % 改 善 し 1 1 . 0 0 % と な り ま し た。

【三井住友フィナンシャルグループ連結】

	17年9月末 [速報値]		17年3月末
		17年3月末比	
自己資本比率 (%)	11.00	1.06	9.94

【不良債権の状況】

次に不良債権の状況についてご説明いたします。

8 頁 を ご 覧 下 さ い。

金融再生法に基づく開示債権残高については、  
破産更生債権及びこれらに準ずる債権は、

3, 0 1 7 億 円

危険債権は、

7, 2 3 8 億 円

要管理債権は、

3, 8 0 5 億 円

合計では、1 7 年 3 月 末 比 Δ 4, 1 8 6 億 円 の 削 減 を 行 い、 1 兆 4, 0 6 0 億 円 と な り ま し た。

また、正常債権を含めた与信合計に対する比率も 1 7 年 3 月 末 比 0 . 8 ポイント減少の 2 . 5 % と な り ま し た。

【三井住友銀行単体】

(単位 億円)

	17年9月末		17年3月末比
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	3,017	△	1,466
危険債権	7,238	△	2,006
要管理債権	3,805	△	714
合計 (A)	14,060	△	4,186
正常債権	549,707		15,181
総計 (B)	563,767		10,995
不良債権比率 (A/B)	2.5%	△	0.8%

次に、債務者区分ごとの引当率は、

破産更生債権及びこれらに準ずる債権は、アンカバー部分に対して 1 0 0 % であります。

また、危険債権は、アンカバー部分に対して 8 9 . 8 %

要管理先債権は、アンカバー部分に対して 5 2 . 6 %

正常債権の内、  
 その他要注意先に対しては、債権額に対して4.7%  
 正常先については、債権額に対して0.2%の引当となりました。

なお、12頁から15頁にオフバランス化の実績についてまとめております。15頁に17年度上期のオフバランス化合計額を（ご参考）として記載しておりますが、△6,623億円となっております。

【繰延税金資産】

21頁及び22頁に三井住友銀行単体の繰延税金資産についてお示ししております。

まず、21頁に（1）繰延税金資産の計上額及びその発生原因別内訳を記載しておりますが、17年9月末計上額は、17年3月末比△1,737億円減少し1兆3,285億円（16行目）となりました。

これは、税引前利益を計上したことを主因に繰延税金資産を着実に回収したことに加え、堅調な株式相場によりその他有価証券の評価益が増加したことに伴い繰延税金負債が増加したことによるものであります。

また、22頁に（2）繰延税金資産の計上根拠を記載しておりますのでご参照下さい。

【三井住友銀行単体】

（金額単位 億円）

		17年9月末	17年3月末比	17年3月末
繰延税金資産の計上額	16	13,285	△ 1,737	15,022
その他有価証券評価差額金の繰延税金負債相当額	17	△ 3,465	△ 820	△ 2,645
上記以外	18	16,750	△ 917	17,667

【17年度業績予想】

最後に、平成17年度の業績予想について、説明資料の23頁をご覧ください。

まず、三井住友フィナンシャルグループ単体の17年度業績予想ですが、営業収益540億円、経常利益480億円、当期純利益700億円を見込んでおります。17年度の株式配当金については、普通株式は引続き内部留保の蓄積を図る観点から16年度と同額の1株当たり3,000円、優先株式配当は所定の配当を行わせて頂く予定であり、配当金総額としては464億円を予想しております。

【三井住友フィナンシャルグループ単体】

（金額単位 億円）

				17年度予想
営業	収益	益		540
経常	利益	益		480
当期	純利益	益		700

次に、中段の連結業績予想については、後程申し上げます三井住友銀行の増益を主因に、5月の決算発表時に公表いたしました予想を上方修正し、

経常利益	8,500億円（当初予想比+700億円）
当期純利益	5,500億円（当初予想比+900億円）

としております。

なお、その下の三井住友銀行単体の業績予想は、足許堅調な株式相場等を踏まえた株式等損益の増加等により、5月の決算発表時に公表いたしました予想対比経常利益及び当期純利益ともに上方修正し、

業務純益	9,500億円
経常利益	6,600億円（当初予想比+500億円）
当期純利益	4,300億円（当初予想比+800億円）
与信関係費用	△3,000億円

としております。

以 上